

なでしこ通信



令和5年8月10日発行

vol.186

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

めい姫ちゃんがお出迎え

～ 斎王祭り ～



6月3日(土)良く晴れた心地よい天気のもと、斎王祭りが開催されました。久しぶりの楽しいお祭りになでしこの皆さんも遊びに行くことができました。

斎王とは天皇の代わりに天照大神にお仕えしていた女性のことで、天皇の娘や姉妹の中から選ばれ、都から遠く離れた斎宮(現在の三重県多気郡明和町斎宮)に移り住んでいたそうです。その斎王をお祭りするために1983年に始まったのが斎王祭りです。40年近く続いている歴史あるお祭りですね。

コロナ禍の影響もあり中止されていましたが、今年やっと再開されました。久しぶりの開催ということもあり、たくさんの観光客であふれとても賑やかな雰囲気でした。少しずつコロナ禍前の世の中に戻りつつあ

ることを実感できました。

会場に着くと明和町のマスコットキャラクター「めい姫ちゃん」がお出迎えしてくれ、めい姫ちゃんと一緒にふれあえ、記念撮影もできました。その後は斎王を模した踊りのステージを観て楽しみました。きれいで迫力あるステージに利用者さんも職員も、みんな魅入られていました。最後にキッチンカーのおいしいジュースを堪能し、斎宮の地

を後にしました。

なでしこでは以前は毎年この斎王祭りに参加していたそうです。今回は久しぶりに参加することができ、利用者さんにとって懐かしい行事になったのではないのでしょうか。地域の祭りに参加し、また地域の方が、なでしこの行事に参加していただけるような地域交流が出来ればと思います。

(指導員：別所)





待ちに待った面会再開!

～ 家族の時間を大切に ～

5月より利用者さんも家族さんも待ちに待った面会が再開されました。感染対策をしっかり行った上で、時間帯や人数、面会時間等の制限はありますが、皆さん本当に嬉しそうです。

新型コロナウイルスの流行により利用者さんは制限の多い生活を余儀なくされました。面会もその中のひとつでした。大好きな家族さんとの自由な面会が中止となり、再開されてからも回数・人数・時

間は制限され、窓越し面会やオンライン面会が主な面会方法となりました。近くで寄り添いながら、触れて優しく声をかけてもらうことが好きな利用者さんも多い中、コロナ禍の面会は今までの面会とは大きく様変わりしました。家族さんも、すぐそこにいるわが子に触れられないもどかしさがあったはずです。

5月から自由に面会できるようになってからは、部屋でゆっくり

家族の時間を過ごされたり散歩と一緒にいたり思い思いの時間を過ごされています。職員も久しぶりに家族さんと話をすることができ、嬉しい気持ちです。

これからはお出かけをしたり、家族さんと一緒に行事を行ったりして、面会以外の生活も少しずつでも元に戻ることを期待したいです。

(サービス管理責任者：倉井)



二人が仲良く出会えますように

～七夕行事～

ルを打って入れる方や自ら投げ入れる利用者さん、そっ〜とカゴに近づき置くように入れる方など、それぞれがカゴに入れやすいように工夫して参加されていました。

みなさんが頑張ってくれたおかげで、なでしこの彦星と織姫が無事会うことが出来ました。

そして、その彦星と織姫を見ながら、7月7日の日、二人が再開できることとそれぞれの願いが叶うことを思いながら、みんなで元気に歌い、七夕行事は終了しました。

また、来年も二人が仲良

く出会えますように…☆彡

(通所保育士：奥野)



通所では、一足早く7月5日(水)に七夕行事を行いました。今年のゲームの内容は、玉入れを行い、そのボールの重みで、彦星と織姫を天井へと上げていくものでした。

ボールをカゴへ入れる際、バトミントンのラケットを使い、ボー



きっする黒部



好きなおやつを買って
食べました。



大好きなポテトチップスに
ソフトクリーム!



宮リバー度会パーク



綺麗な紫陽花が
咲くチェリーロードを
ゆっくりお散歩。

ショッピングモール



外出行事



ペットショップで
可愛い子犬を見つけました!



サーティワンの
アイスクリームも
美味しかったよ。



晴れた日には、
公園でおやつを
食べました。



命の輝きを支える保育士に

令和5年度より、なでしこで保育士の養成学校の実習生の受け入れをはじめ、7月には高田短期大学の4名が実習に来てくれました。

学生の実習受け入れをするにあたって、担当の職員で、より良い実習体験となるよう会議を何度も行いました。実習生は積極的に利用者に関わり、利用者の反応を一生懸命読み取ってくれました。入所ではバースデーセレモニーや外出行事と一緒に参加し、施設で生活する利用者にとっての非日常的

な楽しみの大切さを学んでもらいました。通所では活動時間の30分間を、学生が自分で考えた活動を行うという、部分実習を行ってもらいました。なでしこの利用者の特性に合わせた活動を行ってもらえるよう、実習担当職員が指導を行いました。

学生からは「利用者の小さな反応をとらえることの大切さを学んだ」「活動中に利用者の楽しそうな様子を見て嬉しくなった」「利用者が自分に笑いかけてくれた時に喜

びを感じた」などの反応が返ってきました。

実習受け入れを行う事で、学校や学生に重度心身障がい児者との関りを通して、どんなに重い障害があっても、一所懸命生き、一瞬一瞬を楽しまれている、そういった命の輝きとそれを支える保育士の仕事への理解に繋がればと思います。

(入所保育士：大西)



別の不自由で諦めたくない～出来る事が狭まらない社会に～

2023年3月30日木曜日、山陰中央新報朝刊の「障害の理解広がって 誰もが生きやすい社会に」という記事を読みました。記事では、外出先でのトイレの課題を2名の方が訴えられていました。1人目の方のお子さんは、重度の知的障害と肢体不自由のある8歳の男の子だそうです。外出時でおむつ交換を行う際、備え付けのおむつ台に寝かせた時、足がはみ出してしまい、「トイレを理由に外出できなくなりそう」と言われていました。さらに、「障害があっても他の子と同じように遊びたい。親も遊ばせたい。(体とは)別の不自由で諦めたくない」と訴えています。

2人目の方は脊髄性筋萎縮症を患う方で、衣服の着脱は横にならないと難しいそうです。しかし、外出時はベッドがないため、用を足すために自宅に帰られることも多いそうです。

トイレの問題を解決するため、記事には大人から子どもまで幅広く利用できる「ユニバーサルシート」の普及についても記載されていました。多くが病院や福祉施設への設置であり、現時点では一般的とは言いがたい状況だそうです。普及を願う反面、「少数派であるため、1人で言ったところで実現は難しい」と設置を求める活動はしていないと言われています。また、「自分で工夫する方が現実的。多少のことは我慢する能力が身についた」との発言の記載もありました。(引用)

普段生活していると、ユニバーサルデザインのものが増えてきたり、町もバリアフリーになったりと、少しずついろいろな人が生活しやすいような町に変わってきている印象があります。しかし、目につきやすい部分は改善されていくけれど、トイレの部分は当事者でなければ気づきづらい点なの

ではないかと感じました。小さな子どもが使うことや車椅子の方が使いやすいように設備を整えるという事へのイメージは付きやすいですが、様々な年代の方がユニバーサルシートを必要とされている事に、この記事を読み私も初めて気が付きました。

また、車椅子作製に関わった時、車椅子の幅が大きくなると外出できる場所が限られてしまうと伺ったことがあります。さらに、昔からある施設ではエレベーターやスロープがついていても、入り口やスロープの幅が狭く、使えないこともあると聞きました。

障害も様々で、車椅子も普通型から倒せるものなどがあります。多様な人の声が環境調整を行う際に届くような仕組みになり、出来る事が狭まらないような地域になればと思います。

(作業療法士：村山)

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

……皆様の善意のご寄付に心よりお礼申し上げます……

令和4年11月から令和5年6月にかけて家族の会、個人の方々よりたくさんのご厚意を賜りましたので紹介いたします。

職員一同心より感謝いたします。

ご寄付いただいた物資につきましては当施設にて大切に使用させていただきます。

寄付していただきました



歩行器、図書カード、図書券、腹臥位マット、ハガキ30枚、グミデコ

◆◆◆◆◆ ご寄付をお願いいたします ◆◆◆◆◆

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

なでしこ通信 vol.185について、次のとおり誤りがありましたので訂正させていただくとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

●4面 小児・AYAがんとータルケアセンターの電話番号 正：059-231-5768 誤：0596-27-7188